

「動物園大好き市民会議」市民委員ワークショップ ニュースレター Vol.1

4月28日、「動物園大好き市民会議」第2回市民委員ワークショップが開催され、新「京都市動物園構想」(素案)策定に向けた市民委員による討議がいよいよスタートしました。このニュースレターでは、9月に行われる最終の第5回市民委員ワークショップまで計4回の市民委員ワークショップの進行状況をお伝えしていきます。

「動物園大好き市民会議」とは？

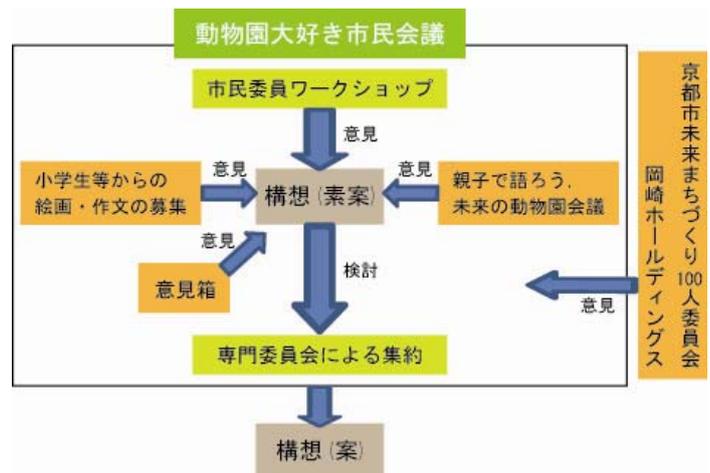
京都市動物園は、明治36(1903)年4月、建設総額の約4割を市民(約6000人)からの寄付を元に全国で2番目に開園しました。

開園100年以上を経た施設は老朽化が著しく、環境保全や維持管理の面からも、新しい時代に適した施設へのリニューアルが望まれています。

そこで、当園を整備するに当たり、市民の手による、市民のための動物園づくりを進めるため、共汗でつくる新「京都市動物園構想」(案)の策定を目的とする「動物園大好き市民会議」(以下、市民会議)が設置されました。

いよいよ市民委員ワークショップでの話し合いがスタート！

市民会議の中心となるのは市民委員ワークショップと専門委員会です。市民委員は公募で選出された京都市民21名で構成されています。今回のワークショップから7名ずつの3つのグループに分かれての話し合いがスタートしました。グループの名称はマンゴロウ班、ミノリ班、ミライ班です。今回のワークショップの課題は、①グループごとの話し合いのテーマを決めること、②そのテーマに沿って、京都市動物園の現状と課題についての意見を出し合うこと、この2つです。



グループごとのテーマ決定

マンゴロウ班のテーマ	「企画, 宣伝, サービス」
ミノリ班のテーマ	「まなびの場」
ミライ班のテーマ	「環境整備」

話し合いの結果、各グループは今後このテーマに沿って話し合っていくことに決定しました。

ディスカッション ～京都市動物園の現状と課題～

各グループの中で、それぞれのテーマに沿って京都市の現状と課題について意見を出し合っていました。このワークショップには2つの重要なルールがあります。「他人の意見を否定しないこと」、「意見を一つにまとめないこと」、この2つです。多様な意見を引き出すことが大切なポイントです。市民委員の方々はみな非常に積極的でとてもたくさんの意見が出され、活発な討議がされました。

ワークショップの様子



マンゴロウ班の意見（企画、宣伝、サービス）

子供向けイベントは充実している。
 手作りの新聞・紙芝居が面白い。
 動物関連以外のイベントが少ない。
 外国人向けの宣伝がない。
 年齢・国籍を問わず楽しめる動物園を。子どもと大人、地元客と観光客。
 イベントや年間パスなど、情報がうまく伝わっていない。
 他施設との連携がうまくとれていないのでは。
 ホームページ上で24時間動物の動画配信。
 動物についての説明、展示の工夫は良い。
 外国人向けの説明文がない。
 ガイドブックやホームページの写真がいまいちで良さが伝わらない。
 おとぎの国が子どもでいっぱい大人が楽しめない。おとぎの国に大人の日。
 グッズにオリジナリティがない。グッズ開発に産・学との連携を。
 飲食スペースが不足。遠足があるとお弁当を食べる場所がなくなる。
 食堂があることも知らなかった（案内の不足）。
 食堂に京都らしいメニューがあれば。
 食堂の雰囲気、おもてなしが悪い。

ミノリ班の意見（まなびの場）

キリンタイムズ等、情報が親しみやすい。
 京都大学との連携の掲示物は良い。
 掲示物が退色しみずばらしい。説明の字が小さい。
 資料室が寂しすぎる。
 エサ・派生物などの展示が不足。
 動物間で比較学習できるような統一感がない。
 動物の本来の生息環境がわかる展示になっていない。
 情報が遅い。
 餌の時間マップがない。
 ゴミの分別が甘い（環境への配慮）。
 質問に答える窓口やスタッフがいない。
 動物舎近くに動物を観察しながら休憩できる場所、見学場所がない。
 イベントが休日にしかない。子供向けのイベントが多い。
 小学校と連携して餌作りの畑の耕作を考えては。
 サポーター制度があればよい。
 大学院生などを活用した動物ガイド。
 動物図書館の利用だけで入園料が必要。

ミライ班の意見（環境整備）

遠路が砂地で歩きにくい。砂埃が舞上がり健康に悪い。
 土道があるのはよい。整備が行き過ぎていない空間は良い。
 疏水治いの眺望を生かし切れていない。東山の借景を意識できない。
 植物の緑がうれしい。姿の美しい大木がある。
 二条通りの古いレンガ造りの塀は歴史的価値があり、耐震上問題なければ残してほしい。
 トイレが狭い、古い、デザインが悪い。数、質に問題。
 食堂が古く、メニューも少ない。
 園内の電柱が目立つ（電柱の地中化）。
 駐輪場が少ない。
 立体的に空間を活用した展示が少ない。
 動物が見えにくいところがある。
 バク舎の位置が悪く、高齢者やベビーカーが見学しにくい。
 大きな動物が小さな檻に入っているのは子供の教育上よくない。
 ふれあいスペースが狭い。



発表会、そして次回への宿題

最後に、各グループで話し合った内容の発表会が行われました。今回のワークショップで、非常にたくさん京都市動物園の課題が指摘されました。次回の第3回ワークショップではこの課題に対して「具体的にどのようにしたらよいか」ということを各グループで話し合います。この話し合いに向けた意見を各自考えてくるのが宿題として提示され、今回のワークショップは終了となりました。



次回の第3回市民委員ワークショップは5月28日に開催されます。